

★分科会で出されたご意見から★

今、子ども達は

- ★ スイッチ一つで何でも動くようになってきているので、思うようにならないとイライラしてしまう。
- ★ 携帯メールが1日100件の高校生がいる。携帯に振り回されている。いつも携帯をやっていて、うわの空だ。
- ★ パソコンでブログをやっていたので、父親がパソコンを使えないようにした。携帯をかったら携帯にかかりきりで携帯依存するようになった。
- ★ 子どもが、群れて遊ばなくなった。体を触れて遊ぶのも嫌がるようになった気がする。
- ★ ふつうは相手を見てコミュニケーションをするが、今の子ども達は、逆に見えない方がいいと思っている。
- ★ 生まれてすぐ保護者がメールをしているような環境で育っている。密接な関係が苦手で、見ず知らずの人とメールをしたいという感じた。



今、保護者は

- ★ 保護者が注意できず、押されてしまうことが増えている。
- ★ 親向けの講習会を開いたが、親よりも子どもが先を行ってしまい親がついていけない。
- ★ ゲームなどで自分の情報を出してしまうことを、親が知っているか。買い与える時のルールが必要ではないか。
- ★ 授乳中や保育園の送り迎えや遠足の時にも携帯をいじっている母親がいる。
- ★ ゲーム脳など、この先が心配だ。
- ★ あまり干渉すると親子関係がこわれそうで、あまり詳しく聞けないのが悩みだ。
- ★ 高校生の我が子にはルールを決めて持たせている。学校の休み時間に、友達と話さず携帯のやりとりをしていることを知った。身のまわりに危険が迫っていると感じた。

子どもを見守る大人の役割



- ★ 子どものいいなりではなく、ある程度親が主導権を持つべきだ。
- ★ 嫌われてもいい。良いことは良い、悪いことは悪いとはっきり伝える責任がある。
- ★ 問題を最小限に食い止める親の姿勢が必要だ。携帯に関わる一定のルールづくりが必要だ。
- ★ みんなで集まって話す機会が減っている。携帯ではなく、実際に会話する機会を増やす。
- ★ 地域の交流を大切にし、地域の中に子どもを取り込む。
- ★ 「実状を知り、方策を練る」ことを行っていきたい。学校での教育も大切だが、与えるのは家庭。となると親の意識の問題だ。
- ★ 下諏訪ではあいさつ運動をしている。家族の中でもあいさつから見直したいあいさつだけでもコミュニケーションになる。

「ネット社会の人権」を考える

ネット社会では人権感覚は育たない

9月27日（月）、町内の様々な立場から71名が参加し、南信教育事務所山内伸治指導主事をお迎えして、町人権教育研修会が行われました。

時間と場所を選ばないインターネット上の誹謗中傷



ネットいじめは、弱い者がターゲットになるとは限りません。肉体的に弱者であってもいじめることは可能なので、誰でもいじめの対象になります。ネットを通して誹謗中傷が短時間で多数の目にさらされ、一度書き込みをされると削除が困難です。また、匿名や偽名で書き込まれるため、誰が書き込んだかほとんど特定できません。

★チェーンメール

「不幸の手紙」に代表されるものです。送られて来たメールを転送しないと不幸になると不安を煽られた不特定多数から、毎日のように誹謗中傷メールが送られてきたりします。こんなことが続くと、さすがに明るい子でも精神的に追い詰められてしまいます。



★なりすましメール

送り主のアドレスは自分の好きなように変更することができるので、誰にでもなりすますることが可能です。また、匿名メールと言って他人のメールアドレスを使う「なりすまし」もあります。他人になりすまし、嫌がらせのメールを送るなどのいじめが多発しています。

こんなことが
起こっています！

★学校裏サイト

学校裏サイトは、ほとんどが在校生や卒業生が勝手に立ち上げた掲示板で、そこではプライバシーは存在しません。名前が挙げられ、お祭りが始まったように悪口がどんどん書き込まれ、学校に登校するとある日突然いじめにあったり、無視されたりするケースがあります。

「カッコ悪い人ランキング」「キモイ人ランキング」など人物評価や猥褻画像、本人が嫌がる画像をアップするケースも目立ちます。また、掲示板に名前を書かれた人が目先を変えるために、別な人の誹謗中傷を書き込むケースもあり、いじめの対象だった子どもが突然、いじめる側にまわるケースもあります。

ネット社会では、人権感覚は育たない。人がいて仲間がいて、人間は其中で学んでいく。人の中で養われたその感覚を持って、ネット社会に入っていくのが望ましい。ネット以外の所で人権感覚は育つ。ネットは生活のほんの一部に過ぎない。生活の全てであってはならない。ネット上の問題に対処することも必要だが、ネット以外で子どもを育てていくことが大事だ。私たち大人にも判断力が必要だ。

南信教育事務所山内指導主事のお話から